

IV. 適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

【適正利用・エコツーリズム WG に関する特記事項】

本 WG は、地域連絡会議適正利用・エコツーリズム部会と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」として開催しています。検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」です。そして知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進しています。その基本原則は次のとおりです。

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
- 持続可能な地域社会と経済の構築

検討会議では、戦略に基づく提案制度による提案の検討とモニタリングを毎回議題にしています。なお、長期モニタリング及び既存ルールの見直しなど、WG として検討すべき課題の増加に伴い、専門家同士の意見交換が必要と判断したため、2018 年度から適正利用・エコツーリズム WG を単独開催しています。

1. 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案が承認され、検討が進められている 3 件（うち 1 件は 2019 年度第 1 回検討会議で取り下げが承認）の状況は以下のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区昆布ツアー	羅臼町観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして、2016 年の検討会議で、5 年間の試行期間を承認した。2019 年度は計 20 人（ツアー催行 3 回）が参加した。また、昨年度モニターツアーに招待した羅臼町民に対してヒアリングを実施している。 次年度よりツアー実施の意味をより適切に示す名称に変更予定。ツアーの経営的持続可能性は引き続き試行。
厳冬期の知床五湖エコツアー事業	斜里町観光協会	冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで冬期の知床五湖をまわるエコツ

		<p>アールを実施している。平成 31 年 1 月 22 日から 3 月 22 日のツアー期間中、計 2,800 名が参加した。</p> <p>一般利用のアクセスコントロールをする手法や手段が難しいため、関係者で協働しながら検討。</p>
知床観音岩 COAST WAY フットパスコース	知床羅臼フットパスクラブ	<p>遺産地域で行われている漁業現場の見学と同地域での散策を求めて、相泊から観音岩までのフットパスコースの設定について提案があった。</p> <p>フットパスとしての利用が適しているか、どのような利用者を想定するか、利用に対する管理をどのように行うか等の課題が残り、2019 年度第 1 回検討会議において取り下げの申し出が承認された。</p>

2. 個別地域における取り組み状況と課題

○知床五湖における利用調整地区制度の運用

高架木道と地上遊歩道（ヒグマ活動期及び植生保護期）を運用しました。地上遊歩道の更なる利用の安定化や質の高い自然体験を提供するため、10 月 21 日～閉園までの自由利用期を植生保護期と変更することとなりました。

○カムイワッカ地区におけるマイカー規制

8 月 1 日～25 日の 25 日間でマイカー規制を実施しました。混雑緩和自体を目的としたものから、利用者へのサービス向上と周囲の自然環境保全の効果も持つ「前向きな」交通規制への移行を検討していく予定です。

○ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働

知床ウトロ海域環境保全協議会において、知床海鳥 WEEK や自然センターでの企画展等のイベントや海鳥のモニタリングを実施しました。知床ウトロ海のハンドブックの売上収入を海鳥及びその生息環境の保全活動と普及啓発活動に充てていますが、改訂も検討中です。

3. 適正利用・エコツーリズム WG での議論

適正利用・エコツーリズム WG では主に以下について議論しました。

○長期モニタリングの改定について

- ・2018 年度に新設したモニタリング項目に基づき、「知床エコツーリズム戦略に基づいた管理や利用」をモニタリングするための手法を検討しました。
- ・評価項目 VII を適正に評価するための手法を検討しました。

○新しい資源開発の動向について

- ・アドベンチャーツーリズムや世界自然遺産を活用したプロモーション等の道内観光の推進について、北海道観光局から報告がありました。
- ・各機関において、新しい資源開発に繋がる可能性のあるツアーや事業者に対して検討会議に積極的に提案いただくよう声を掛けてほしい旨の協力依頼がありました。

4. 主な検討事項や今後の予定

○検討会議

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、2月頃に第2回を実施予定です。
- ・2017～2018年度の「知床国立公園利用のあり方懇談会」で聴取した地元意見をもとに、関係行政機関等で見直し方針を検討する予定です。

○OWG

- ・長期モニタリング等について科学的助言を得るため、2月頃に第2回を実施予定です。
- ・新たに設けたモニタリング項目が適切に実施されるよう科学的助言を得ながら進めるとともに、モニタリング項目及び評価項目の評価方針について検討します。
- ・引き続き地域外の資源利用者ともコミュニケーションを図り、北海道観光局等を中心に、民間関係者も含めた知床の適正な利用について検討します。